

スクラム十勝シンポジウム 2014～十勝農業の持続的な発展をめざして～ 開催要領

スクラム十勝

(2014年度シンポジウム事務局 道総研十勝農業試験場)

1. 趣旨

「スクラム十勝」は、我が国の食料生産の中核である十勝地域が抱える食の安全と安心に関する多様な課題の解決や課題解決に資する高度な人材の育成、健全な食文化の構築に資するため、十勝圏の研究機関等間における包括的な連携協力を推進するための枠組みを確立することを目的として平成 17 年 3 月に結成された。参画機関は当初の 4 機関から 6 機関に増え、本年、結成 10 年目を迎える。

農業を巡る国内・国外情勢は変化が激しく、また、農業を取り巻く社会環境や自然環境も変化しつつある中、我が国最大の食料生産基地である十勝地域にも将来にわたる大きな影響が考えられ、今後とも活力ある地域を持続するためには、解決すべき課題は山積している。

我々各構成機関は、日頃の活動を通じて十勝圏の発展に寄与することを目指している。本シンポジウムでは「十勝農業の持続的な発展をめざして」を全体のテーマとして、中長期の視点で試験研究が地域に貢献できることを発信する。

2. 開催日時 平成 26 年 10 月 31 日 (金) 13 時 00 分から 17 時 30 分まで

3. 開催場所 めむろ一ど 2F セミナーホール (芽室町本通 1 丁目 19)

4. 主催 スクラム十勝 (共催 十勝農学談話会)

5. 参集範囲 農畜産業、食品産業、関係企業団体、教育機関 (学生)、行政等の関係者

6. 参加費 無料

7. 参加定員 330 名 (定員になり次第、締め切り。)

8. 参加申込み 10 月 16 日 (木) 締め切り

参加申込書 (別紙) により、FAX (0155-62-0680) にて申込み。

9. プログラム

- 1) 開会挨拶 柳沢 朗 (道総研十勝農業試験場 場長)
- 2) 基調講演 (50分、質疑応答を含む)
「十勝農業の魅力をいかに効果的に伝えるか？」
高原 淳 (ソーゴー印刷株式会社社長)
- 3) 構成機関の発表 (各20分、質疑応答を含む、6機関、途中休憩15分)
 - (1) 食品安全の国際標準普及に関する帯広畜産大学の取り組み
渡辺 信吾 (帯広畜産大学)
 - (2) 農業生産や食品加工の自動化・省力化・高品質化に向けた取り組み
田村 知久 (公益財団法人とかち財団)
 - (3) 「哺乳ロボットを活用した黒毛和種子牛の哺育・育成」マニュアル番外編
居城 伸次 (家畜改良センター十勝牧場)

(休憩)

 - (4) 十勝の黒毛和牛生産を支援する研究開発の方向
宝寄山 裕直 (道総研畜産試験場)
 - (5) 豆の主産地十勝の将来を支える研究開発の方向
島田 尚典 (道総研十勝農業試験場)
 - (6) 10年後の農業を見据えた、北農研の育種・栽培・IT研究の連携
辻 博之 (農研機構北海道農業研究センター)
- 4) 総合討論 (60分)
- 5) 閉会挨拶 植松 秀訓 (公益財団法人とかち財団 事務局長)

10. 問い合わせ・連絡先

スクラム十勝シンポジウム2014事務局

道総研十勝農業試験場 研究部長 高宮 泰宏

〒082-0081 北海道河西郡芽室町新生南9線2番地

Tel : 0155-62-2431 (代表)、Fax : 0155-62-0680

E-mail: takamiya-yasuhiro@hro.or.jp